

さくらの里新聞



第244号 令和6年4月16日発行

発行元 社会福祉法人心の会 さくらの里

通所介護課 課長（管理者）：馬賀清子 主任：入山祥子

〒238-0026 横須賀市小矢部4-19-4 E-mail: day@sakura-asunaro.com

電話046-852-0500 ファックス046-852-0643

さくらの里公式ブログ・デイサービス日記 <https://ameblo.jp/sakura-asunaro01/>

小矢部住宅地外出リハビリ

3月27日(水)

桜のお花見を兼ねた外出リハビリを行いました。デイサービスのある衣笠山のふもとの住宅地を、コースを決めて歩きます。お客様の体力や身体能力に合わせて距離を設定しました。一番元気なお客様には長い坂道を往復するコースがあります。難しい方には平坦な場所まで車で移動し、そこから歩いていただきました。軽くストレッチをした後に靴に万歩計を付けて出発です。寒すぎず暑すぎずのちょうどいい陽気で、歩いていると吹いてくる風が心地よく感じられます。今年はソメイヨシノの開花が例年よりやや遅かったためまだ三分～五分咲きくらいでしたが、通り道にあった陽光桜のピンク色が青空に映えてとてもきれいでした。つい足元を見て歩きがちですが外に出て景色を見ると目線が上がり姿勢も良くなるように思えます。雨のため2日間の予定が1日となってしまいましたが、参加できた方はがんばってたくさん歩かれました。



2月のさくらクラフト工芸活動

エコクラフトの菓子皿

クラフトバンドでバックや手つきカゴなど数多くの作品を作ってきましたが、今回は、初期に行った菓子器作りに久々に挑戦です。立体ではないので簡単に作れそうに見えますが、色・柄の組み合わせを選ぶところから始まり、バンドをまっすぐに

組みあわせきれいな四角形にしていくのもなかなか難しいのです。サイズの大小を選ぶことができましたが、皆さん2つとも作りたいという方が多かったです。果物や自分の好きなお菓子を乗せてみたり、来客用に試してみたりするのもいいですね。シンプルながら作る事の楽しさを感じていただけたと思います。



特選スイーツ・「壺屋のいちご大福」

今や和菓子の一つのジャンルとして地位が確立しているフルーツ大福ですが、その元祖はい

3月11日(月)12日(火)13日(水)

ちご大福と言われています。今回は地元の横須賀市から、北久里浜駅前の商店街にある壺屋のいちご大福が特選スイーツに登場です。壺屋は創業70年の和菓子司で創業当初はさくらの里もある衣笠にお店があったそうです。どら焼きやお団子など常連さんに人気の定番メニューが多く、いちご大福は季節限定商品で特に人気が高いのですぐに売り切れてしまうこともあるそうです。こし餡を求肥で包んでほんのりいちごの色が見えてかわいらしく、どこから食べてもいちごが味わえそうです。いちご大福自体を始めて召し上がる方もいらっしや、まずはあんこが美味しいと、そしていちごの甘酸っぱさがちょうどよく合うと感嘆



の声を上げていました。もともとお店をご存じの方や、近くのお店ならまた食べられるねと店名をメモする方もいらっしや、デイサービスと地域との関わりと言う点からも今後も定期的に地元のお店を利用させていただきたいと考えています。

無印良品バウムクーヘン味比べ

3月8日(金)9日(土)



雑貨などオリジナルブランドを幅広く手掛ける無印良品のスイーツ「不揃いバウム」約40種類の中から人気上位のバナナ・チョコレート・宇治抹茶を味比べしました。バウムクーヘンと言うと結婚式の引き出物や手土産として知られていて輪の形になっているものが一般的ですが、不揃いバウムは製造の過程で処分してきた生地や端の形が基準に満たないものを価格を抑えて販売したことから始まり、棒状で食べやすく人気定番商品となっています。バウムクーヘンの名前の由来や記念日、無印良品についてクイズ形式で楽しく学んでから試食です。どれも美味しくて選びきれなかったようですが1日目はバナナバウム、2日目は抹茶が人気と順位が変わり、甘さの強めなバナナとすっきりした甘さの抹茶で好みが変わったようです。おやつにも丁度いい量で、楽しい食べ比べとなりました。



3年ぶりにカラオケ再開！

コロナ禍で休止していたカラオケを久しぶりに再開しました。歌うことが大好きなお客が多いのでやっとまたデイサービスで歌っていただくことができ、職員も嬉しく思います。マスク着用とマイクの除菌を行ったうえで、午後ののたのしいひとときを過ごしていただいています。

